

# 第14回 林雅子賞は、武田基杏さんが受賞！

林雅子賞とは…

日本女子大学家政学部生活芸術科住居専攻（1962年より家政学部住居学科）の第一期生である国際的建築家林雅子先生を記念し、優れた女性建築家の育成と本学住居学科の発展のために、2002年に「住居の会」(日本女子大学住居学科同窓会)により創設された賞です。

(住居の会 HPより <http://jyukyo.net/>)

第14回 林雅子賞の選定が、2016年2月20日（土）に、日本女子大学 目白キャンパスで行われました。

今回は選定委員長に竹山 聖 氏（建築家）、選定委員に大西 麻貴 氏（建築家）、貝島 桃代 氏（建築家/住居学科41回生）を迎え、公開で選定会が行われました。

応募者11人によるプレゼンテーション、質疑応答のあと、選定委員の先生方によるディスカッションが行われ、第14回林雅子賞には、武田基杏さんの作品「川に積もる雪、集う人」に決定しました。



## 川に積もる雪、集う人

大学院1年  
武田 基杏 さん 2015年度卒業  
建築デザイン専攻 篠原研究室

### concept

地方都市では、大都市と同様な発展を狙い、その過程で独自の資源を「活力のあるもの」から「弱み」に転換してしまうケースが多く見られる。「地方の多様性をどう扱うか」は今後の地方都市の鍵であると考え、本制作では、新潟県三条市を対象に、資源をより良い形で維持するための新しい基盤を提案する。

三条市は、約400年、金属加工業の伝統を受け継いだ町である。調査によりこの町には「積雪」「川の合流点」「町工場」の3つの地域特性があると考えられるが、それぞれに問題を抱えている。特に川は町を分断する負の要素となっており、そこで川の合流点の地形を利用して、冬季でも人が歩いて渡りながら交流できる橋を提案した。日本海地域の文化「雪囲い」の形を元にした「橋の屋根」は、斜度を変えることで、雪に反応する空間を作ることができる。1階は職人と住民・来訪者がものづくりを媒介に交流する場となり、新しいコミュニティが形成される。屋根に着雪

した風景によって「川に雪が積もる」という、新たな景色が生まれ、これが三条の新しい風物詩・シンボルとなる。多くの住民に利用されることを期待する。



jyukyo dayori

# 住居だより

日本女子大学 住居学科のニュースをご紹介します。

ひとと空間を科学する

No.019

May 2016

## 小黑 日香理 さん

せんだいデザインリーグ 2016

日本一を受賞！

赤レンガ卒業設計展 2016

最優秀賞を受賞！

住居学科2015年度卒業生の卒業制作作品が数々の賞を獲得しました！また、住居学科同窓会「住居の会」による第14回 林雅子賞が決定しました！今回の住居だよりでは、見事受賞した卒業生の作品を紹介します。



小黑 日香理 さん 2015年度卒業  
建築デザイン専攻 宮研究室

「初音こども園 —都市で育つ子供のための建築—」

せんだいデザインリーグ 2016 日本一

赤レンガ卒業設計展 2016 最優秀賞

第14回 林雅子賞 審査員賞 竹山賞



▶作品詳細 P.2-P.3

小川 理玖さん 2015年度卒業  
建築デザイン専攻 篠原研究室

「ポップアップホテル」

せんだいデザインリーグ 2016 100選

第39回学生設計優秀作品展 (レモン展) レモン賞

第14回 林雅子賞 審査員賞 貝島賞



▶作品詳細 P.3

武田 基杏さん 大学院1年 2015年度卒業  
建築デザイン専攻 篠原研究室

「川に積もる雪、集う人」

近代建築「卒業設計優秀作品集」に掲載

第14回 林雅子賞 林雅子賞



▶作品詳細 P.4

吉永 沙織さん 大学院1年 2015年度卒業  
建築デザイン専攻 宮研究室

「生き続ける家 —心的イメージと感情における空間モデルの構築—」

第14回 林雅子賞 審査員賞 大西賞



▶作品詳細 P.2

各賞の詳細につきましては、それぞれのホームページをご参照ください。

せんだいデザインリーグ 2016 <http://gakuseikaigi.com/nihon1/16/>

赤レンガ卒業設計展 2016 (協賛 総合資格学院 HP) [http://www.shikaku.co.jp/future/exhibition/16\\_akarenga/index.html](http://www.shikaku.co.jp/future/exhibition/16_akarenga/index.html)

第39回学生設計優秀作品展 (レモン展) 概要 | <http://lemongasui.co.jp/lemon-exhibition/> Twitter | <https://twitter.com/lemonten2016>

# 初音こども園 —都市で育つ子供のための建築—

2015年度卒業  
建築デザイン専攻 宮研究室  
小黒 日香理 さん

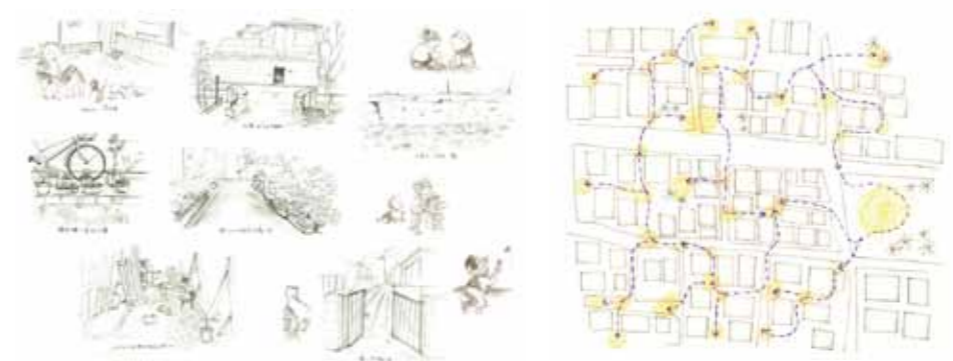
## concept

敷地は谷中五丁目、初音の森という大きな公園の隣に位置する静かな寺町です。谷中には、ネコや子供しか知らない居場所が沢山あります。私はそれらの居場所をつなぎ、マチを感じながら過ごすことのできるこども園を考えました。

地図をもとにつなげる道の形をスタディし、サーキットのような子供たちの走りまわられるかたちに行き着きました。マチに溶け込む小さいえいと、それらをつなげる環状のサーキット、そこにかかる柔らかくシンプルな屋根下空間で構成され、マチの路地や街区を横断して柔らかくつながるこども空間となります。



子供達が、マチのなかで色々な人と出会うとき、小さな生き物にふれるとき、走り回って遊ぶとき、子供達が、初めて都市を感じる瞬間に私はそっと手を差し伸べたい。



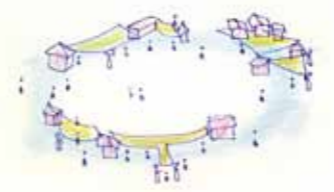
子供のころ、無意識だったまちとの関わりを意識的に捉え、子供に戻るように丁寧にマチの体験を記述した。  
マチのなかで見つけた小さな居場所や、ネコやこどもの道をつなぐ



地図をもとにつなげる道の形をスタディし、こどもの走り回れるサーキット状のかたちへ行き着いた。



みちをつなげてつくられたこども園は、3つの要素で構成される。



マチの路地や街区を横断して柔らかくつながるこども空間となる。



みんなを呼び込むギャラリーの場。



まちのゆるやかな坂の上に来たプレイルーム。



初音の森を客席にした学芸会には、沢山の人があつまる。



地域に開けたおおきなデッキと木漏れ日のニワ。



3つの楕が面して、袋小路はリビングのように使われる。



ミニファームで、野菜を近所におすそ分け。

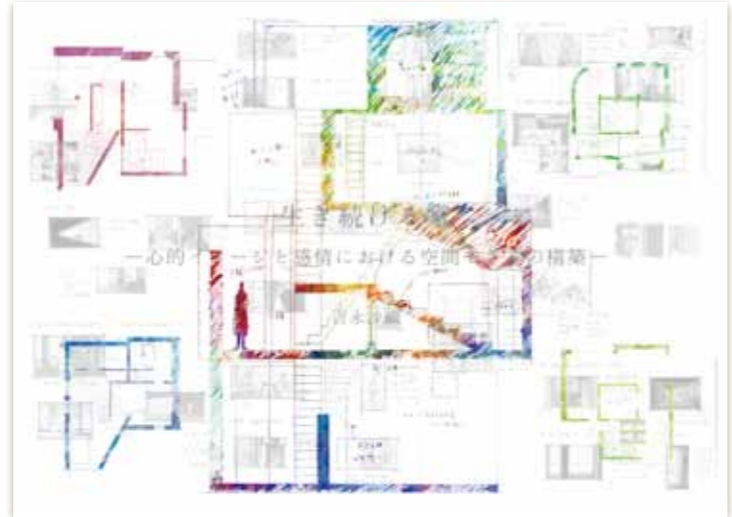
# 生き続ける家 —心的イメージと感情における空間モデルの構築—

2015年度卒業  
建築デザイン専攻 宮研究室  
大学院1年  
吉永 沙織 さん

## concept

ふと何かを思い出し想いを馳せ、無意識のうちに自己を認識できる空間こそが現代社会で生きる私たちにとって必要なモノだと考える。

心的イメージと感情が生まれる瞬間、生き続ける空間『現実の狭間』が生起する家。



# ポップアップホテル

2015年度卒業  
建築デザイン専攻 篠原研究室  
小川 理玖 さん

## concept

街の中心地にありながら、短期間に出現するスペースを活用し、最初は宿泊だけだった簡易的なホテルが、だんだんと用地が増えるにつれ、隣接する建物に合わせて機能が充実していくことで、街に開かれたホテルへと変化していく。

